

令和5年度 畜産研究課 試験研究課題一覧

対象	研究課題名	研究内容	研究期間	予算区分	共同・協力機関
1	肉用牛 「脂の旨さ」を引き出す和牛肥育技術の開発	肥育後期に脂肪酸カルシウムを給与し、脂肪の質の改善効果について検討する。また、供試牛について脂肪の質に影響するSCD遺伝子型を調査し、牛の遺伝的能力に応じた、飼料給与による「脂の質」の改善を試みる。	R5~R7	県単プロ (徳島ブランド)	
2	肉用牛 種雄牛候補牛の「おいしさ」に関する特性分析試験	出荷、屠畜された候補牛産子を牛肉を購入し、雌雄別、ランク別で分け、枝肉形質、物理的性質、うま味成分検査を実施し、候補牛毎に傾向分析を行う。また、産子に対してSCD遺伝子型検査を実施し、SCD遺伝子型と脂肪酸組成および不飽和脂肪酸含有率との関連を分析する。	R4~R6	県単プロ (新品種)	
3	肉用牛 黒毛和種繁殖牛における夏期繁殖成績向上～体の内と外から暑熱対策～	黒毛和種繁殖雌牛に対し、細霧装置、夏期用飼料設計及びその2つを合わせた暑熱対策を行い、暑熱ストレス指標を測定するとともに、受胎成績及び採卵成績を調査することにより、暑熱対策の効果を評価し、夏期繁殖成績維持のための飼養管理技術の確立を目指す。	R3~R5	地方創生 (気候変動)	
4	肉用牛 反芻時間モニタリング技術を活用した黒毛和種育成牛の飼料摂取量推定技術の開発	黒毛和種育成牛に、反芻時間モニタリングシステムを装着し、反芻時間と飼料摂取量を測定し、その相関グラフを作成する。作成した相関グラフを用いて、反芻時間から飼料摂取量を推定することで、個体毎の飼料要求量を把握する簡略的な個別管理の実現を目指す。	R3~R5	地方創生 (スマート)	
5	肉用牛 哺乳ロボットを活用した哺育牛育成管理技術の確立	当課で生産された初生子牛に対し、1日の給与回数と1回当たりの給与量の異なる高タンパク低脂肪代用乳(強化哺育)を給与し、体重、体高、ボディコンディションスコアを測定し、増体を比較する。また、その結果を踏まえ、哺乳期間の短縮を検討する。	R4~R6	地方創生 (スマート)	
6	肉用牛 種雄牛による県産牛改良促進に向けた現地調査試験	種雄牛候補牛精液を協力農家が保有する黒毛和牛に交配を行い、得られた産子について生時の体格調査を実施する。また、産子とその母牛についてゲノミック評価を行い、遺伝的能力を推定することで、種雄牛による県産牛の改良を効果的に推進する。	R5~	県単	
7	肉用牛 受精卵供給センター事業	黒毛和種牛の優良受精卵を採卵し県内畜産農家に供給することにより、繁殖牛の改良と肉用素牛の増頭を図る。	H1~	県単	
8	乳牛 乳用牛の代謝プロファイルテストと画像解析による飼養管理診断システムの構築	個体及び牛群の情報から、早期に異常や問題を発見し、迅速に解決策を酪農家へ提示するシステムの構築を目指す。個体栄養情報、育成情報等の徳島県独自のデータベース及び画像解析ツールを開発し、AI利用による飼養管理診断システムの基礎を構築する。	R3~R5	地方創生 (スマート)	県酪
9	乳牛 夏の受胎率UPを目指す現地調査型試験～徳島酪農経営スタイルの構築～	夏期における受胎率の低下対策を図るため、初期受精卵のヒートストレスを回避する方策を検討するとともに、ビッグデータを活用し、飼養管理と夏期受胎率の関連及び夏期に繁殖成績が良好な個体の特性調査を行う。	R3~R5	地方創生 (気候変動)	
10	乳牛 乳牛育成・繁殖管理施設における実証試験	乳牛育成・繁殖管理施設において、自給飼料を中心とした混合飼料給与実証やモミガラを利用した敷料利用を実証する。	R3~R5	県単 トータル サポート	県酪
11	乳牛 中規模酪農経営改善推進事業 (乳用牛群検定普及定着化事業)	検定成績の分析指導と牛群検定農家及び検定指導員を対象として、牛群検定情報の活用促進を図るための研修会を開催する。	H13~	県単 (畜産振興)	県酪 牛群検定組合
12	乳牛 新たな日常に応じた「とくしまの酪農・乳用牛生産基盤強化事業」	酪農家と乳業工場が連携して取り組む「乳用牛300頭の牛群造成」について、県、酪農家(県酪)、乳業工場による「包括連携協定」に基づき、牛繁殖施設(CBS)における受胎率向上繁殖技術の指導等を行う。	R3~	地方創生 (畜産振興)	県酪
13	肉用牛 県有種雄牛造成体制整備事業	徳島県独自の系統構成を持つ特色ある種雄牛を造成し、優秀な種雄牛から生産した精液の供給体制の整備を図るとともに、種雄牛が有する優良遺伝子を活用した新ブランド牛の創出に取り組み、牛肉の美味しさを指標とした県内肉用牛の育種改良及び品質向上を図る。	R5	地方創生	
14	乳牛 家畜改良総合対策推進事業	受精卵移植技術により、県内で飼養されている乳牛の優良遺伝子を有効活用し、酪農経営の維持発展を図る。	H20~	県単 (畜産振興)	
15	豚 徳島県産豚肉の品質向上に関する実証試験	「高温ストレス耐性のある豚群作出技術の開発」(R2~R4)に取組み、遺伝子型により肉質に差のある1塩基DNA多型(SNP)を発見した。それらの情報を種畜選抜時の指標として用いた場合の改良効果を検証するため、実際に種畜を選抜、その産子の肉質評価を行う。また、生産者の豚についてSNPと肉質の関連性を調査し、生産者で有効なSNPを明らかにする。	R5~R7	地方創生 (気候変動)	農研機構
16	豚 鳴門産メカブを利活用したブタの育成率向上飼育技術の開発	ワカメカブの給与が、豚の腸内細菌、免疫力及びストレスに対する抵抗性に及ぼす効果を調査する。有効な給与方法の検討を踏まえ、豚の免疫力や耐ストレス性が高まるとともに、生産コストの低減や育成率向上に結びつく飼育技術を開発する。	R3~R5	地方創生 (環境負荷)	徳島大学
17	豚 低タンパク質飼料と消化性を高める資材を活用した環境負荷低減型養豚技術の開発	肥育前期(30~70kg)の肥育豚に、標準飼料よりもCPが2%低い低タンパク質飼料と消化性を高める資材(酵素、整腸剤)を混合給与し、肥育成績及び枝肉成績に及ぼす影響について調査する。	R4~R6	地方創生 (環境負荷)	
18	豚 開放型育種による効率的な豚の改良技術に関する試験	アワヨークで用いてきた閉鎖群育種による系統造成に対し、他系統より能力の優れた種畜を導入し、育種価による能力評価と選抜を繰り返すことで、小規模かつ効率的に種畜を改良する手法を開発する。また、改良した種畜の農家供給を図る。	R1~	県単	
19	阿波とん豚 「阿波とん豚」増産・流通システム確立事業	豚コレラ、口蹄疫等、家畜伝染病が近隣県で発生した場合の回避処置として、精液及び受精卵を凍結保存し、種の保存を行う。	R3~	地方創生 (畜産振興)	
20	阿波とん豚 阿波とん豚の維持に関する試験	維持系統における遺伝子型固定豚の増頭、肉質に関わる候補遺伝子領域の絞り込みによる選抜効率の向上及びBLUP法を活用した繁殖能力の改良等を検討し、阿波とん豚種豚の安定供給を図る。	H28~	県単	
21	肉用鶏 鶏舎の衛生環境を改善するAIロボットの開発	平飼鶏舎において、有害微生物等の増殖を抑え、鶏を健全に飼育し、生産性の向上を図るため、UV-LEDを装備したAIロボットを開発するとともに、その効果を検証する。	R5~R6	地方創生 (スマート)	日本フノン (株) 徳島大学

	対象	研究課題名	研究内容	研究期間	予算区分	共同・協力機関
22	肉用鶏	ブロイラー産肉能力試験	ブロイラーの改良動向を把握し、県内養鶏農家の飼養管理技術改善の結びつける指針を得るため、県内流通の主要銘柄について産肉能力を調査する。	S52～	県単	
23	阿波尾鶏	阿波尾鶏の輸出を推進する肉用鶏食鳥処理における衛生管理技術の検討	シンガポールへの阿波尾鶏輸出を想定し、食鳥処理工程における消毒剤の選択、使用方法について、微生物学的性状及び肉質への影響を基に評価し、衛生管理方法について検討する。	R4～R5	県単プロ (需要)	
24	阿波尾鶏	阿波尾鶏安定生産確保事業	「阿波尾鶏」の品質保持及び安定生産を図るため、生産規模に応じた原々種鶏群系統の維持及び種卵供給に取り組む。	H13～	県単	県養鶏協会
25	飼料作物	サイレージの好気的変敗防止策の検討	サイレージ(発酵飼料)の好気的変敗に対し、カバーや大きな袋を用いて物理的に空気を遮断する、脱酸素作用のある資材等を用いる、殺菌作用のある紫外線ライト等を用いる、など様々な観点から変敗の要因にアプローチし、有効な防止策を検討する。	R3～R5	地方創生 (気候変動)	
26	飼料作物	子実とうもろこしの安定多収生産技術の開発	「みどりの食料システム戦略」の目標である化学肥料使用量30%削減の条件でも飼料用トウモロコシの子実収量の安定生産を可能とする堆肥主体の減化学肥料管理技術を明らかにする。	R4～R6	委託プロ	農研機構他11機関
27	飼料作物	飼料作物優良品種選定調査	本県に適した生育性・収量性に優れた飼料作物の品種選定を行い、優良品種の普及促進に努め、粗飼料自給率の向上を図る。	H22～	受託	日本草地畜産 種子協会
28	飼料作物	飼料高騰対策に向けた粗飼料増産方法の検討	本県の利用体系や気候風土に適した粗飼料増産を図るため、寒地型イネ化牧草で夏場まで長期間収量確保ができる品種を検討する。	R4～ R6	県単	
29	飼料作物	自給飼料対策事業	畜産農家の適切な飼料給与を図るため、自給飼料等の成分分析を実施する。	H19～	県単	
30	飼料	流通飼料対策推進事業	牛飼料の製造、販売業者及び畜産経営者において、牛用飼料を採取し、牛由来たん白質の検出及び動物の種類を判別することにより、飼料安全法の遵守状況を確認する。	H18～	県単	
31	環境	畜舎汚水処理水の水質向上技術の開発	一般排水基準が導入されても対応可能なように、処理水中の硝酸態窒素(N)、リン(P)、COD等を低減する汚水の負荷軽減技術について検討する。	R4～R6	県単	
32	環境	モミガラ長期保存実証	モミガラの運搬効率を考スフレコンバック利用を基本とし、野外で保存する方法として、①内袋の利用、②フレコンカバーの利用、③防水フレコンバック利用、④コンポストバックの利用における保存適正を比較する。	R5～6	県単 トータル サポート	高度技術支援 課 農業支援セン ター
33	環境	畜産バイオマス利活用推進事業 (環境汚染防止対策) (堆肥等品質・成分分析) (環境汚染防止対策)	畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。また、堆肥、尿汚水の成分分析を実施する。 また、堆肥、尿汚水の品質、成分分析を実施し、畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。	H28～	県単	資源環境研究 課 農業支援セン ター